里山・里海をテーマに広がる世代間交流

地元の環境を学び、守り、伝えるために

スクールキャラバン事業は、「生涯にわたる健康づくりと住みよい環境づくり」への関心を持たせる、あるいは公衛協と学校が持続的に活動する学社融合システムの構築を目指し、小・中学校を対象に体験型の環境・健康学習を実施する事業である。また、事業を通じて、公衛協の人材発掘・育成や活動メニューの拡充につなげるほか、水質浄化・里山復元・温暖化対策・健康づくり事業など、地域ニーズに合わせた実践活動の発展をねらっている。

実施内容は、水辺・海辺・里山教室、ビオトープづくりなどの「自然体験学習」、地球温暖化防止、ごみ分別、不法投棄などの「環境学習・ごみ問題学習」、地域マップづくり、世代間交流などの「まち・暮らし学習」といったものである。

事業の申請にあたっては、公衛協・学校・環保協の3者でテーマや日程調整を行い、必要に応じて当協会のスタッフや専門家を派遣している。

この事業を活用し、公衛協活動の周知や他団体との連携強化、活動の活性化につなげていただきたい。なお、長年にわたる指導者養成講座の開催により県内各地に講師の力量を持つ推進委員が養成されている水辺教室では、主催者が講師を務めるよう促している。

水田の生き物を採取する児童たち（上）、採取した生き物を観察し、野帳に記録（下）

実践事例紹介

〈福山市赤坂学区公衛協〉

テーマ：地域の環境を守る学習や行動を支援

ポイント：地域・学校・公民館・行政が連携

福山市西部の田園地帯に位置する赤坂学区公衛協は、数年前からまちづくり委員会や福山市と連携して小学校の学習活動を支援している。小学校は、近くの河手川で清掃活動や生き物調査に取り組んできたほか、水田の生き物調査、資源エネルギー学習、グリーンカーテン、エコクッキング、制服のリユース、ごみステーションへの環境ポスターの掲示、夏祭りでエコ灯篭を使った環境保全の呼びかけ活動など、学習と学習成果の発信を続けている。

地域とともに活動してきた学習会と成果発信、連携と親睦が評価され、平成26年度地球温暖化防止活動環境大臣賞を受賞した。

〈呉市倉橋地区公衛協〉

テーマ：地元の海岸生物を知る

ポイント：外部講師斡旋、新しい浜で実践

倉橋の海と暮らしを守る会と市民センターが主体となり、公衆衛生推進委員が協力して倉橋小学校4年生を対象に干潟の観察会を実施した。干潟の生き物のことを知り、生き物や環境を守ろうという気持ちを育てることをねらいに、4年生の総合学習の時間を利用して実施。学校では以前から「倉橋環境調査隊」と称し、近くの桂浜で生物調べ等を実施してきたが、この度、初めて事業に申請した。当協会職員が参加できなかったため、経験豊かな外部講師を紹介した。当日は学校から少し離れた干潟まで行き、生き物採集・観察、実験を展開し、干潟の機能について学んだ。

〈江田島市公衛協〉

テーマ：ホタルから見る総合環境力

ポイント：連続講座

三高小学校では、6年生を対象に1・2学期の総合学習を使った環境学習を展開した。「ホタル」をキーワードに、地元の木下川のホタルの飛翔の場所、時期、数などの聞き込み調査や、川に入り幼虫を採集して飼育を体験するなど、地元の自然環境とその変化について考えた。

この事業は、小学校が企画し、当協会職員がコーディネーターを務め、事業の進捗に応じてホタルの専門家や、地元の環境を守る活動をしている公衛協に、ゲストティーチャーとして参加していただく手法で実施した。児童は班ごとに研究テーマを設定して授業に臨み、学習成果を模造紙にまとめて発表した。

今回紹介したのは、事業の一例である。このように里山・里海をテーマとしたさまざまなスタイルの事業が展開されている。皆さまの地区・学区においても、学校と連携した事業を検討の際は、同事業の活用を検討いただきたい。

（地域活動支援センター）

干潟で生き物を採取する児童たち（上）、講師から干潟の機能について学ぶ（下）

木下川のホタルの飛翔条件などを調査する児童たち（上）、班ごとに研究テーマを設定して受講（下）

株式会社かんほきょうコミュニティサポート

「リハビリサロンおひさま」3月開所

こだわりは見える化したプログラム

当協会出資の「株式会社かんほきょうコミュニティサポート」が、今月、広島市安佐南区緑井に「リハビリサロンおひさま」を開所しました。

「リハビリサロンおひさま」は、要支援や要介護認定を受けた方を対象とした介護保険サービスで、トレーニングマシンなどを使用した機能訓練に特化した半日の介護予防・重度化予防デイサービスです。事業所は、「おひさま」の名のとおり、人の温もりを感じる清潔感のある空間をイメージしたデザインとなっており、トレーニング・プログラム・くつろぎの3つのゾーンに分かれています。

トレーニングゾーンでは、利用者ごとの運動設定（負荷や回数）が自動で行えるリハビリ機器を使用し、根拠に基づいた運動を提供します。運動データは自動で記録・保存されるので、利用者やご家族の皆さまに運動効果を実感していただけます。プログラムゾーンでは、認知症予防や転倒予防につながる運動のほか、生活機能の改善を目的とした座位中心の運動を行います。くつろぎゾーンでは、カフェのような雰囲気の中で、挽きたての豆を使ったコーヒー等の本格的な飲み物や、スタッフや利用者どうしの楽しい会話を楽しんでいただけます。その他、運動機能や身体組成、認知機能などの変化が分かるような仕組みを取り入れており、「見える化」による利用者のやる気や満足度の向上に役立てます。

当協会は、この事業の県内展開を視野に入れて、県民の健康長寿の延伸に寄与し、元気な高齢者がコミュニティを支える社会づくりに貢献したいと考えています。

カフェのような雰囲気のくつろぎゾーン（上）、充実した機器が並ぶトレーニングゾーン（下）

（新事業開発課　瓜本正樹）